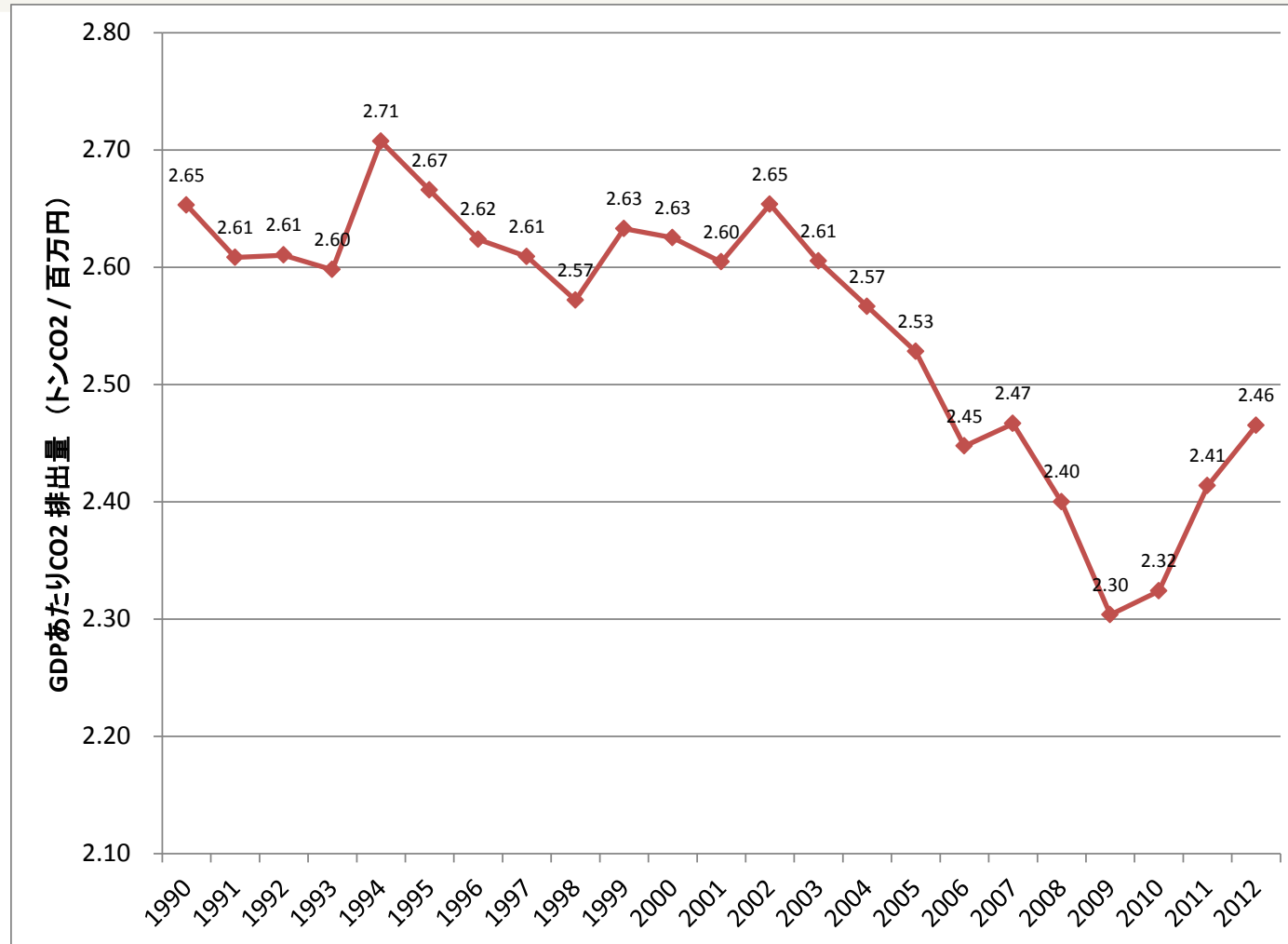


**2012年度（平成24年度）
温室効果ガス排出量（確定値）について
（部門別概況など）**

GDPあたり総CO₂排出量の推移

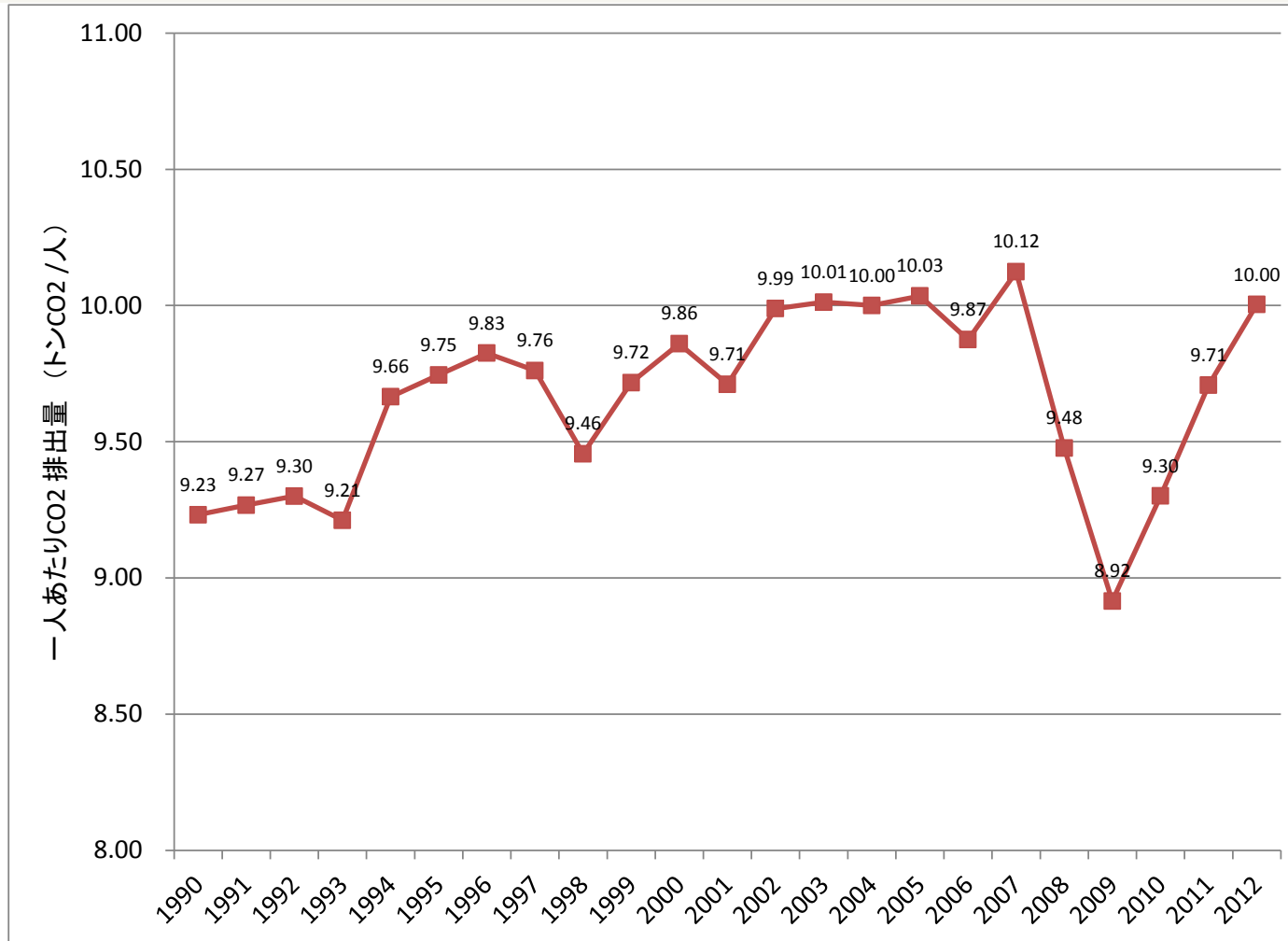
○2012年度のGDPあたり総CO₂排出量は、2010年度、2011年度に引き続き増加し2.46トンCO₂/百万円となっている。
前年度比で2.1%増、1990年度比で7.1%減となった。



〈出典〉日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2012年度確定値)
(国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス)

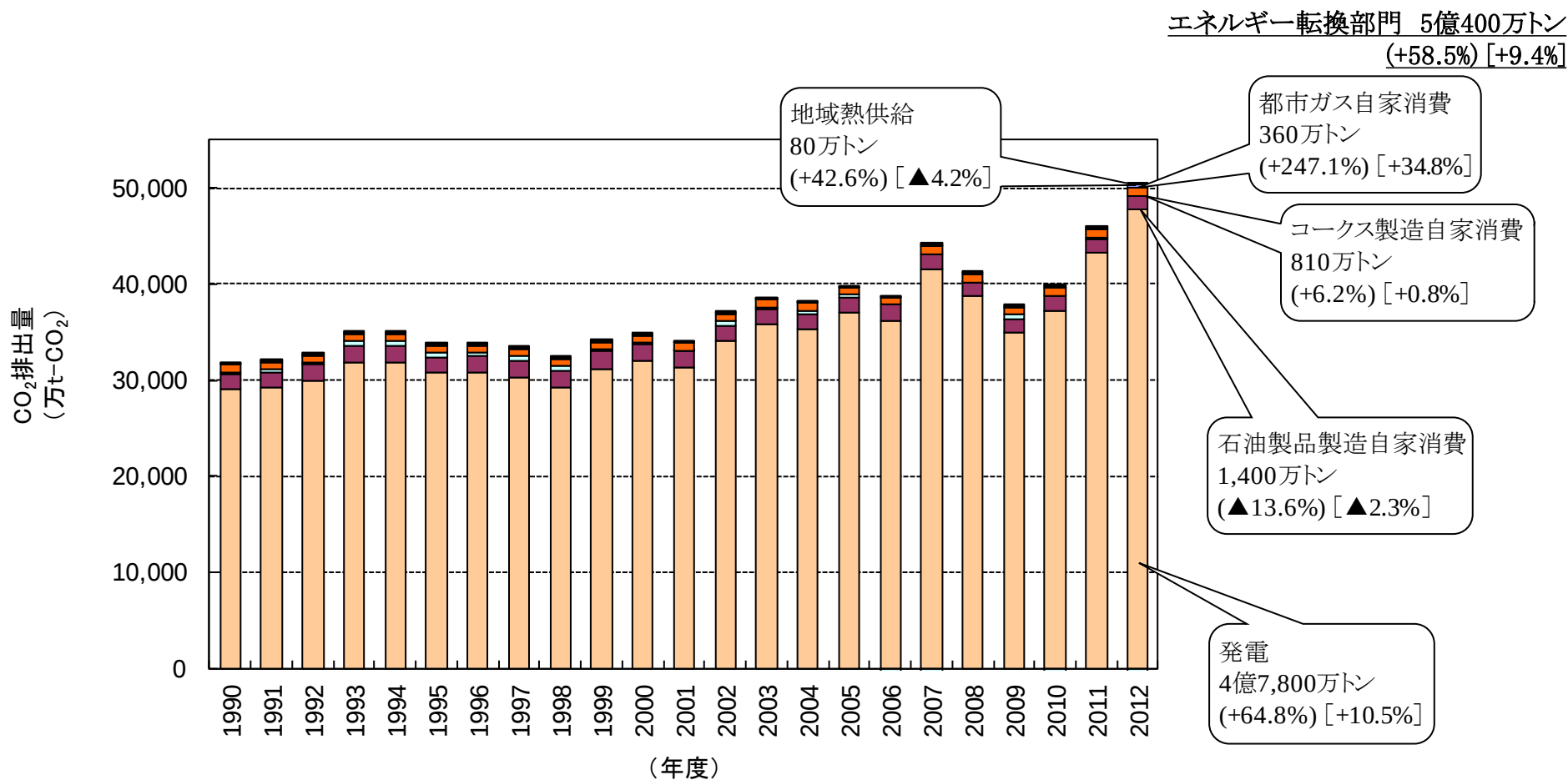
一人あたり総CO₂排出量の推移

○一人あたり総CO₂排出量は1990年度以降増加基調にあったが、2008年度・2009年度に大きく減少した。2010年度以降は3年度連続で増加しており、2012年度は前年度に比べ3.0%増の10.0トンCO₂/人となった。1990年度と比べると8.4%の増加となっている。



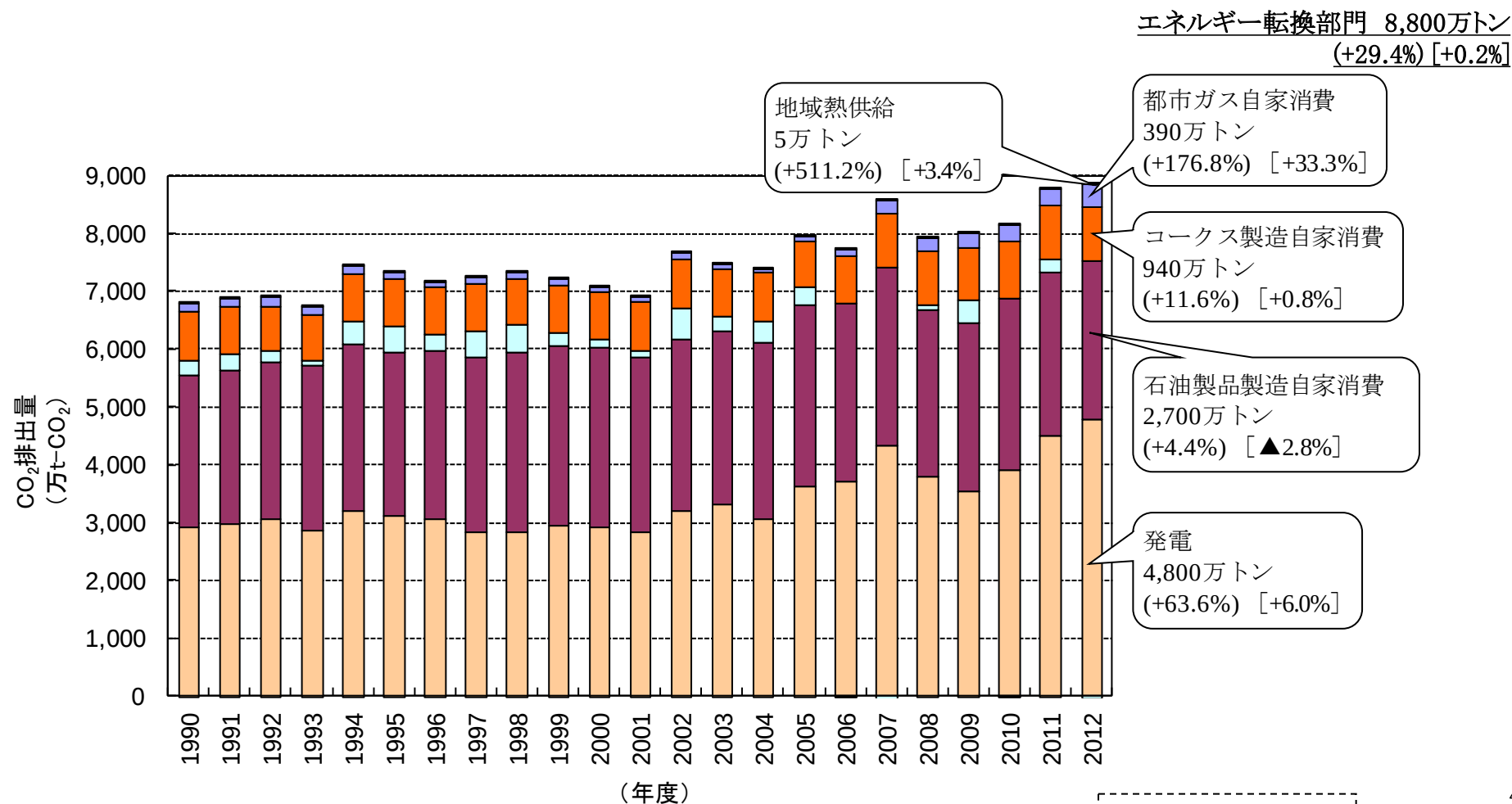
エネルギー転換部門概況(電気・熱配分前)

- 2012年度のエネルギー転換部門のCO₂排出量（電気・熱配分前）は5億400万トンであり、そのうち、発電に伴うCO₂排出が9割以上を占める。
- エネルギー転換部門における発電に伴うCO₂排出量（電気・熱配分前）は、2012年度は2010年度から3年連続で増加しており、1990年度比では64.8%増加、前年度比では10.5%増加となっている。



エネルギー転換部門概況(電気・熱配分後)

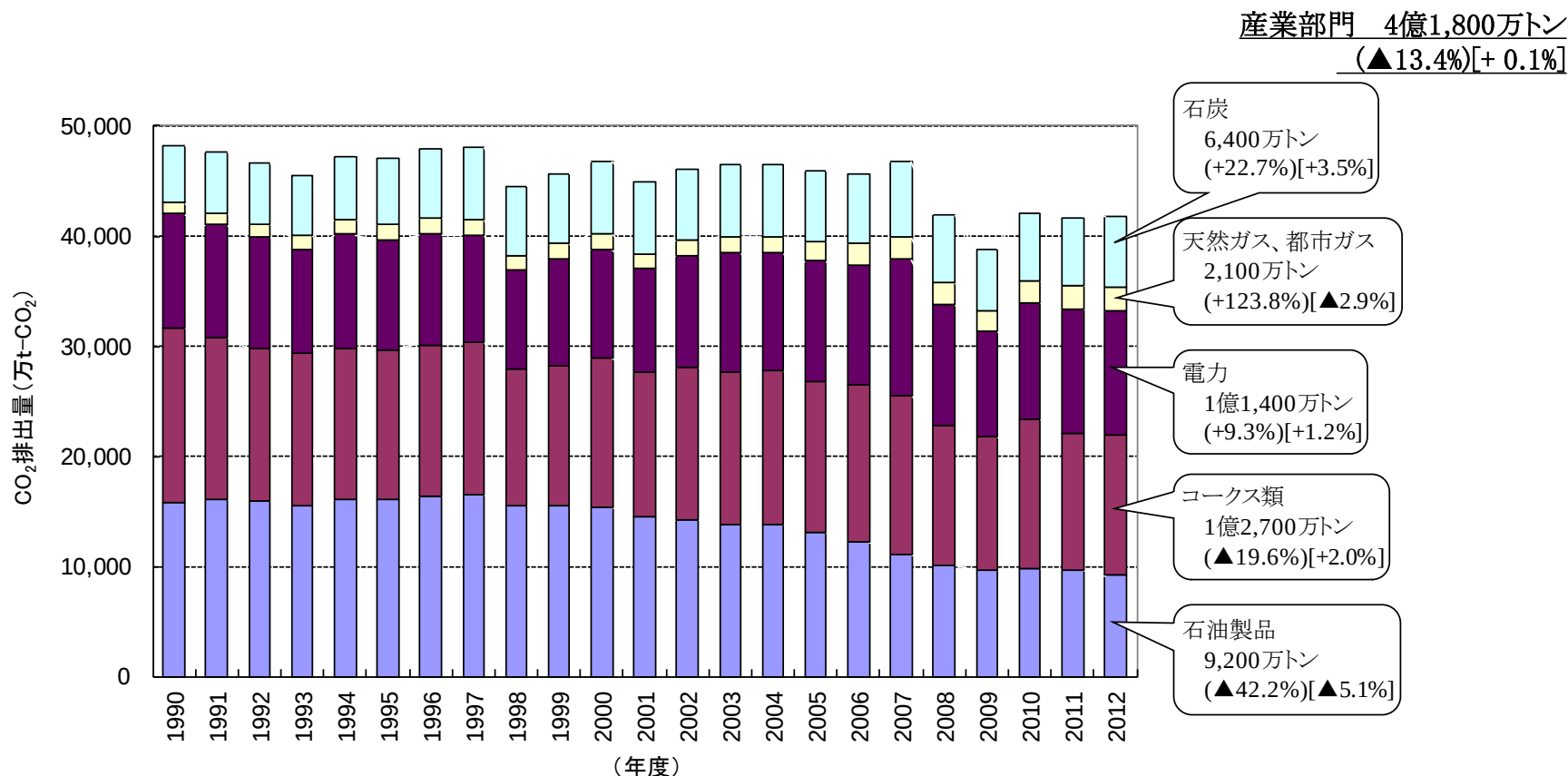
- 2012年度のエネルギー転換部門のCO₂排出量(電気・熱配分後)は8,800万トンであり、そのうち、発電に伴うCO₂排出が半分以上を占める。
- エネルギー転換部門における発電に伴うCO₂排出量(電気・熱配分後)は、電気・熱配分前同様、2012年度は2010年度から3年連続で増加しており、1990年度比では63.6%増加、前年度比では6.0%増加となっている。



産業部門概況(電気・熱配分後) 燃料種別排出量の推移

○2012年度における産業部門の総排出量は、前年度比0.1%の増加となった。

○燃料種別排出量では、電力、石炭、コークス類からの排出量が前年度から増加している。一方、天然ガス・都市ガス、石油製品からの排出は減少している。

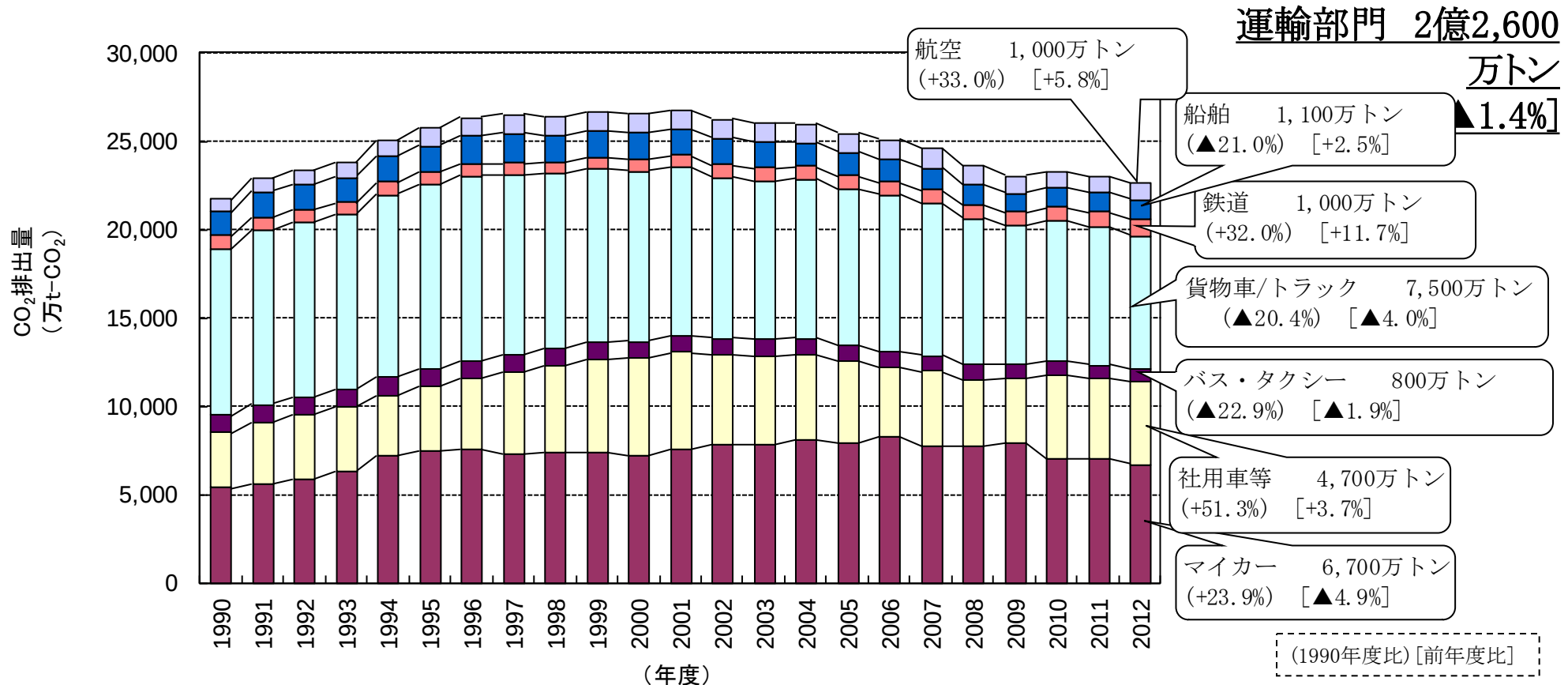


※自家発電・産業用蒸気に伴う排出量を燃料種ごとに配分。また、自家発電のうち、売電された分は自家発電の燃料消費量の比に基づいて按分。

(1990年度比) [前年度比]

運輸部門概況(電気配分後)

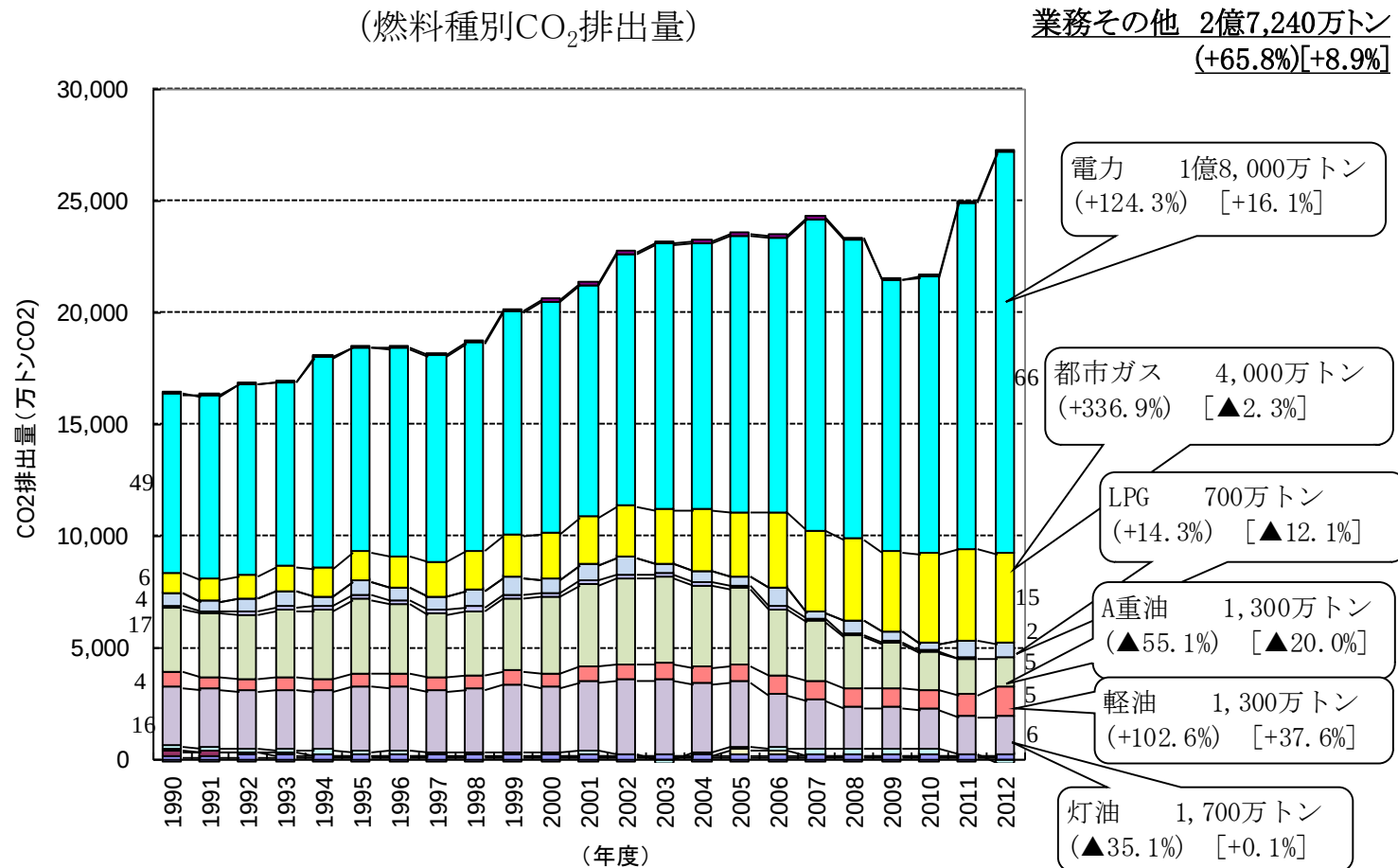
- 運輸部門全体のCO₂排出量は基準年度以降増加傾向にあったが、2001年度をピークとして減少に転じ、2009年度まで減少傾向が続いた。2010年度は2001年度以来の増加となったが2011年度に再び減少に転じ、2012年度も減少が続いている。2012年度は前年度比1.4%減、1990年度比4.1%増となっている。
- 2012年度は、前年度と比較して社用車等、鉄道、船舶、航空からの排出量が増加する一方、マイカー、バス・タクシー、貨物車／トラックからの排出量が減少している。



※マイカーについては、家計調査報告における家庭のガソリン消費量を用いて推計し、自家用乗用車全体との残差を社用車等としている。

業務その他部門概況（電気・熱配分後）、電力消費量の推移

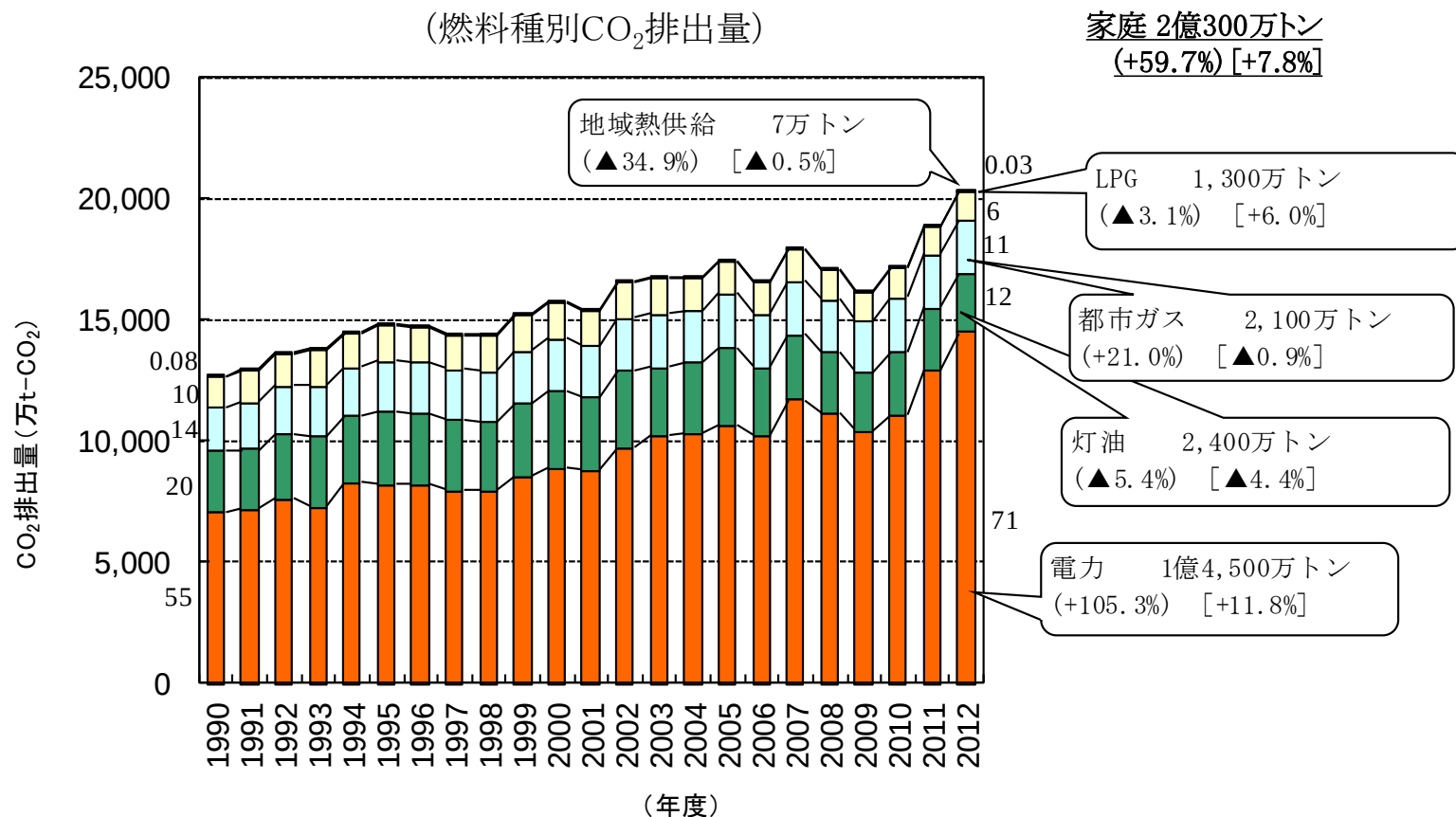
○2012年度の業務その他部門のCO₂排出量は2億7,240万tCO₂と、前年度から8.9%増加している。燃料種別では、電力からの排出量の増加量が圧倒的に大きい。一方、A重油は前年度から20.0%も減少している。



※1990年度と2012年度の横の数字は、全体に占める各エネルギー種の割合(単位:%)。

家庭部門概況(電気・熱配分後)、電力消費量の推移

○2012年度の家庭部門におけるCO₂排出量は、2億300万tCO₂で、前年度より7.8%の増加となっている。1990年度からは59.7%増加している。2012年度は電力からの排出量が前年度比11.8%増と大きく増加しており、LPGも増加している。

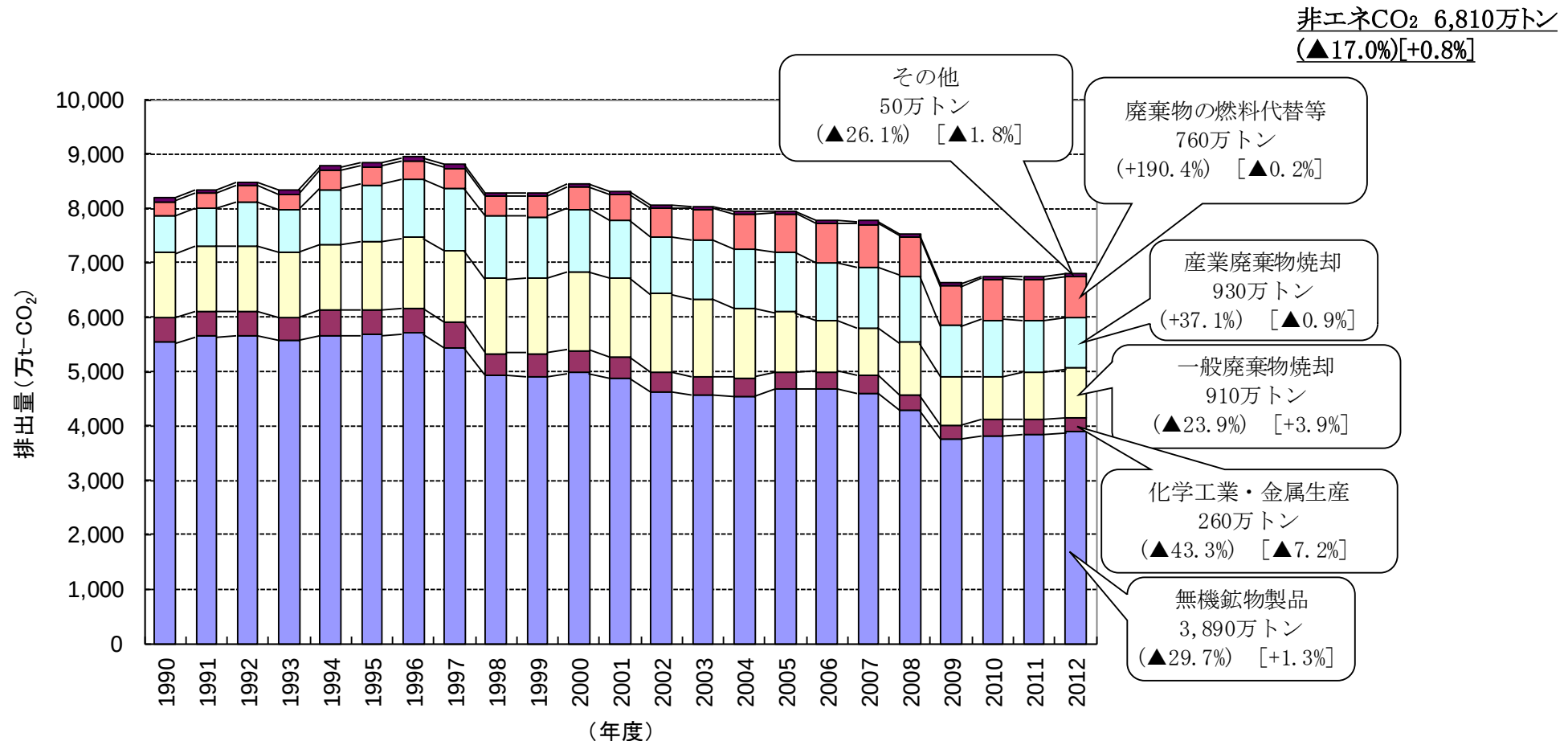


※対象としている排出量は家庭内のエネルギー使用に伴うCO₂排出量で、自動車利用に伴う排出量は含まない。
 ※一般電気事業者及び特定電気事業者からの家庭向け販売電力(定額電灯、従量電灯ABC、選択約款/ 時間帯別電灯)。
 ※燃料種別CO₂排出量の1990年度と2012年度の横の数字は、全体に占める各燃料種の割合(単位:%)。

(1990年度比) [前年度比]

非エネルギー起源CO₂の排出量の内訳

- 非エネルギー起源CO₂においては、無機鉱物製品（セメント等）からの排出が半分以上を占めている。2012年度の排出量は前年度からほぼ横ばいの0.8%増となっている。無機鉱物製品は前年度から1.3%増である。
- 1990年度から17.0%減となっているが、無機鉱物製品からの排出量の減少が最も影響している。



※廃棄物の原燃料利用、廃棄物からエネルギー回収に伴う非エネルギー起源CO₂排出量は、国連への報告においてはエネルギー部門で計上している。

(1990年度比)[前年度比]